



東京オリンピック・パラリンピックを未来へつなごう

vol.2

知ろう、学ぼう、

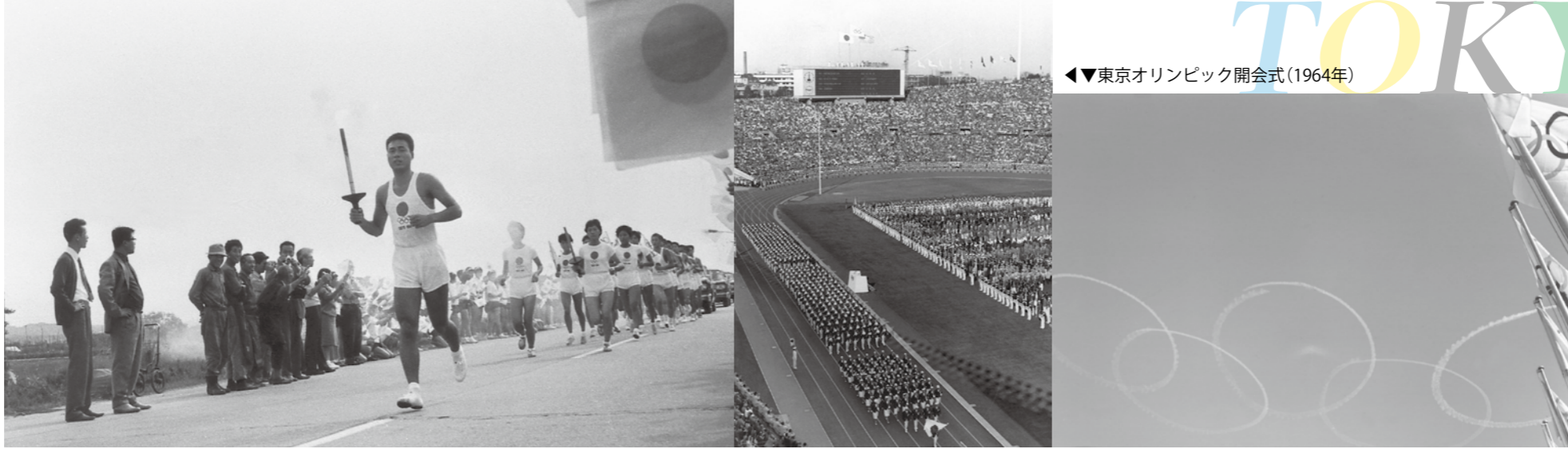
問い合わせ

スポーツ育成課 電話 24・8139

オリンピックの歴史

世界的なスポーツの祭典・オリンピックは、来年の東京大会で32回目を数えます。今月号では、大会創設の歴史や、54年前の前回東京オリンピックを振り返ります。

◀東京オリンピック開会式(1964年)



▲沿道の声援を受け、小松市内を駆け抜ける聖火ランナー

近代オリンピックのはじまり

19世紀の後半、欧州各国やアメリカでスポーツ競技大会が盛んに開かれるようになり、フランス人のピエール・ド・クーベルタン男爵(1863~1937)は、若者が健康な肉体と健全な精神を持つことが社会の発展を促すとの信念を固め、古代ギリシャのオリンピック(紀元前776~紀元393)を再興した近代オリンピックの創設に乗り出します。各国が文化の違いを越え、友好を深め、世界平和にもつながると信じ、1894年に国際オリンピック委員会(IOC)を設立。2年後にはギリシャの首都アテネで第1回近代オリンピックが開催されました。

日本の初参加は1912年

1909年、講道館柔道の創始者である嘉納治五郎(1860~1938)が、クーベルタンの依頼によりアジア初のIOC委員に就任。「精力」は善い行為として発揮されるべきであり、他者とともに向上を目指す「自他共栄」こそ肝要であるという理念を掲げ、1911年には、オリンピック参加の母体として大日本体育協会を設立しました。

悲願の1964年東京大会

翌1912年のストックホルム(スウェーデン)大会に、日本は初めて陸上競技に2人の選手を派遣しました。平和の祭典であるオリンピックですが、世界大戦などが勃発した激動の

時代の中で、その大きな波に揺れます。日本でも、決定していた1940年第12回東京大会が中止になったほか、出場を認められなかった大会もありました。

戦後から19年が経った1964年10月、悲願の東京オリンピックが開催。関係者が総力を挙げて選手と指導者の育成強化を進めてきた結果、日本選手団は、金16個を含む計29個のメダルを獲得し、日本中が熱狂しました。大会の成功は、国民の大きな自信となりました。

東京五輪がもたらしたもの

東京オリンピックは日本のスポーツ界に大きな財産を残しました。サッカーやバレーボールなどの日本リーグ誕生のほか、水泳や体操を中心としたスポーツのクラブが全国に波及。多く

の競技で強化が図られ、スポーツは国民にとってより身近な存在となりました。

また、この大会開催に向け、首都高速道路と東海道新幹線の整備が進み、東京はインフラの充実した近代都市として発展。日本は経済大国への歩みを加速していきました。

※パラリンピックの歴史については、今後、紹介します。

【参考】公財 日本オリンピック委員会、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の公式ホームページ

小松出身のオリンピック出場選手

これまでの大会に小松からも多くの選手が出場し、世界の舞台上で活躍しました。

- ◆1968年・メキシコシティー 村井富雄選手(ボート)
- ◆1988年・ソウル 坂田昌弘選手(ボート)
- ◆1992年・バルセロナ 坂田昌弘選手(ボート)
- ◆1996年・アトランタ 赤城千恵子選手(カヌー)
- ◆2000年・シドニー 村井啓介選手(ボート)
- ◆2008年・北京 豊田陽平選手(サッカー) 中川真依選手(水泳・飛込)
- ◆2012年・ロンドン 松下桃太郎選手(カヌー) 岸彩乃選手(トランポリン) 中川真依選手(水泳・飛込)

interview プレイバック 1964



川越 英清さん(打越町)



▲開会式に臨む川越さん(前列中央)

開会式で響かせたファンファーレ

当時、陸上自衛隊中央音楽隊に所属しており、東京五輪の開会式でファンファーレを演奏する貴重な経験をさせていただきました。30秒ほどの吹奏のためにトランペットの練習を重ね、本番では、とにかく緊張したことを覚えています。マラソンの表彰式や閉会式でも演奏する機会があり、感動の瞬間は今も心に残っています。2020年大会の開会式会場に行くことができれば、今度は楽しみながら観覧したいですね。

シンボルマーク「5つの輪」の意味は？

オリンピックシンボルのデザインは、クーベルタンが考えたものです。青、黄、黒、緑、赤の色は、地色の白を加えると、世界の国旗のほとんどを描くことができるという理由で選んだそうです。また、5つの輪はアジア、ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ、オセアニアの5大陸の結合を表しています。

オリ・パラ豆知識

「オリンピズム」って何だろう？

オリンピック創設者のクーベルタンが唱えた理念を「オリンピズム(=オリンピック精神)」と言い、今も受け継がれています。「スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え、友情・連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界の実現に貢献すること」